

あの日の私へ。

(原文)

清水 楓乃 (15 歳)

東京都

東京純心女子中学校

あなたは今、幸せですか。突然変なことを聞いてごめんなさい。私は、10 年後のあなたです。今回、あなたにどうしても伝えたいことがあって、この手紙を書いています。

でもその前に、まずはこの 2030 年の世の中がどうなっているのかをお話ししますね。私にとっては現在、あなたにとっては未来のこの世界では、実に様々な技術が進歩しました。例えば政治。ここ最近になって、少しずつ女性議員の数が増えてきました。女性にしかわからない悩みを解決できるよう、精一杯努力してくれています。とても頼もしいです。また、交通に関しては、自動運転が当たり前の時代になりました。事故の回数も、年々減少傾向にあります。いつか、交通事故が無い世界になればいいな、と思います。教育現場では、色々な事情を抱えている子供たちに対して、一人一人に合った教え方をすることが可能になりました。例えば、学校に行けない子には、授業を動画化していつでも学べるようにしたり、勉強が嫌いな子には、ゲーム感覚で楽しく学べるように工夫したりと、各学校で知恵を絞り合い、実践しているようです。医療現場では、様々な病気に対する特効薬が作られました。レントゲンなどはより正確に解析できるようになりました。検査の結果も 10 年前の半分以下の時間で出るようになったため、何の病気なのか、どう対処すればよいのかを即座に判断できるようになりました。この技術により、手遅れだという患者はほとんどいなくなりました。医学の大きな進歩です。ちなみに私は今、重い病と戦う子供たちを支える、小児外科の看護師として働いています。いくら医学が進歩したとはいえ、未だにわかっていないことだらけの病気はたくさんあります。そんな病気の子供たちを支え、小児外科医の先生を手伝うのが、私の仕事です。看護師になるための道のりは、想像よりも遥かに過酷で、大変なものでした。しかし、それを乗り越えた今は、とても充実しています。担当した患者の子が退院したときの嬉しさと言ったら、言葉に言い表すことなどできません。もちろん、医療の現場ですから、悲しいことも、酷く落ち込むこともたくさんあります。でも、それでも私は、この仕事を辞めることができません。なぜなら、この仕事が好きだから、辛くても、悲しくても、好きなことはやめられませんよね。だからこそ、私はこの仕事を続けられているのだと思います。私はあなた、あなたは私だから、きっと考えていることは同じはず。だからお願い、好きなことを決して諦めないで。これが私がどうしても伝えたかったことの一つ目です。

もう一つは、また別のお話。今度は過去にあった出来事。私は小学校 3、4 年生の時に不登校になっ

てしまいましたね。そして5、6年生で通った塾で、酷いいじめに遭い、中学校1年生の時、再びいじめを受けた。本当に辛かった5年間でした。でもね、その5年間は、決して無駄ではなかったのですよ。人生に無駄なことなんて一つもありません。そう思える日は、いつか必ずやってきます。私から詳しくお話することはできませんが、これだけは伝えておきます。あなたの未来は、眩しすぎるほど輝いていますよ。私が先程お話しした未来は、あくまでも可能性の一つ。未来は変わります。そして将来の選択肢は無限大、全てはあなたの選択次第なのです。だから自信を持って、一日一日を大切に生きて下さい。私からのメッセージも忘れないでほしいな。あなたがまた少し大きくなったら、私のように、辛かった時の自分に伝えてあげてね。その時のあなたが思う、大切なことを。